

大学音楽室のメディア環境と ICT 導入の可能性

Media environment of university music room
and possibility of ICT introduction

小林田鶴子(神戸女子大学)

Tazuko KOBAYASHI (Kobe Women's University)

(キーワード)

教員・保育士養成、音楽室、メディア環境、AI スピーカー

本稿では小学校・幼稚園教諭、保育士養成大学に於ける音楽室のメディア環境の現状について、筆者の勤務校と前任等の実例を紹介する。勤務校に於いては視覚メディア機器がほとんど無いことから、教員養成であるにも係らず「音楽＝ピアノ演奏」という意識が強い為に視覚が蔑ろにされている現実を示す。また、そういった環境の中での工夫や、新しいメディアとして、AI スピーカーの活用についても考える。

1. 勤務校の音楽授業に使う部屋とメディア環境

現在の勤務校の音楽関係の授業で使う教室のメディア環境は以下の通りである。

- ① 音楽室 (80 人収容) : 音楽科教育法、ピアノグレード試験…グランドピアノ、各種楽器、CD プレーヤー、カセットデッキ、手動スクリーン
- ② 階段状になった講義室 (220 人収容) : 保育内容表現(音楽)、音楽概説(音楽理論)…卓(マイク、CD/DVD/カセット/VTR デッキ、OHC、ノート PC、自動スクリーン) アップライトピアノ
- ③ 研究室…ピアノ、弾き歌いレッスン、ゼミ

2. 授業に於ける問題点と解決策

①音楽室…プロジェクターをはじめ、DVD プレーヤーやパソコン、OHC など、視覚メディア環境が全く無かった。→プロジェクターは授業の都度教務から借り、自前のノートパソコンをつないで DVD を見たりする。紙面を見せる場合は PDF に変換してパソ

コンから表示。(今年度は OHC を使用) →音楽室にプロジェクターを設置し、DVD プレーヤーも揃える。
②階段状講義室…楽器がアップライトピアノしかないので、別棟の4階下の音楽室から90~100人分の楽器を運んできている。階段教室なので、グループワークがやりにくい。→講義室でピアノ鍵盤を OHC で見せたい時はハンドロールピアノを使って音が出るようにする。また、クラスを二つに分けて、多目的室などを使う。(楽器は学生に運ばせる) *但し講義時間が倍になる。

3. 前任校のメディア環境

筆者が初めて赴任した大学は勤務校と同じく、小学校・幼稚園教諭、保育士を養成していた。そこでは音楽室は ML になっており、メディア機器はカセット、CD、MD、DAT、VTR、DVD、LD、OHC が揃っていた。勤務校のピアノ設備は練習室(含レッスン室)はグランドピアノ9室、アップライトピアノ33室と充実しているが、こうした状況は、「音楽＝ピアノ演奏」といった考え方が多くの大学の経営者にある為だと考えられる。

4. AI スピーカーの可能性

PC の音を増幅するのにスピーカーが必要だが、いっそのこと AI スピーカーを購入した。曲名とアーティストを指定することができ、一般的な用語解説もできる。しかし多くの楽曲を演奏させるには、登録(有料)の必要があったり、著作権等の問題もある。